

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

達古武湖サイト

－北海道釧路町－

達古武湖は、釧路湿原東部に位置する淡水の海跡湖です。湖には、およそ6本の河川が流入し、達古武川から流出して釧路川に合流した後、太平洋に注ぎます。達古武湖とその周辺からは、これまで20種以上の魚類が確認されており、ヤチウグイやイシカリワカサギ、エゾトミヨ等の日本では北海道にしか生息していない貴重な魚類が確認されています。本湖は、釧路湿原国立公園内に位置し、ラムサール条約湿地にも登録されています。また、環境省により、外来種であるウチダザリガニの駆除や自然再生事業が実施されています。



ヒシが繁茂する湖面をカヌーにて調査地点へ向かう様子
(2024年6月撮影)



トミヨ属淡水型
(2024年6月撮影)

2024年度の調査結果概要

達古武湖サイトは、2018年以来、2巡目の調査となります。1回目の調査は6月28日～29日、2回目の調査は9月28日～29日に実施しました。調査マニュアルに従い、定置網に入った魚類を回収し、種ごとに個体数を数え、湿重量を測定しました。また、定置網に入りにくい魚種を採集するため、投網とタモ網を用いた調査も行いました。

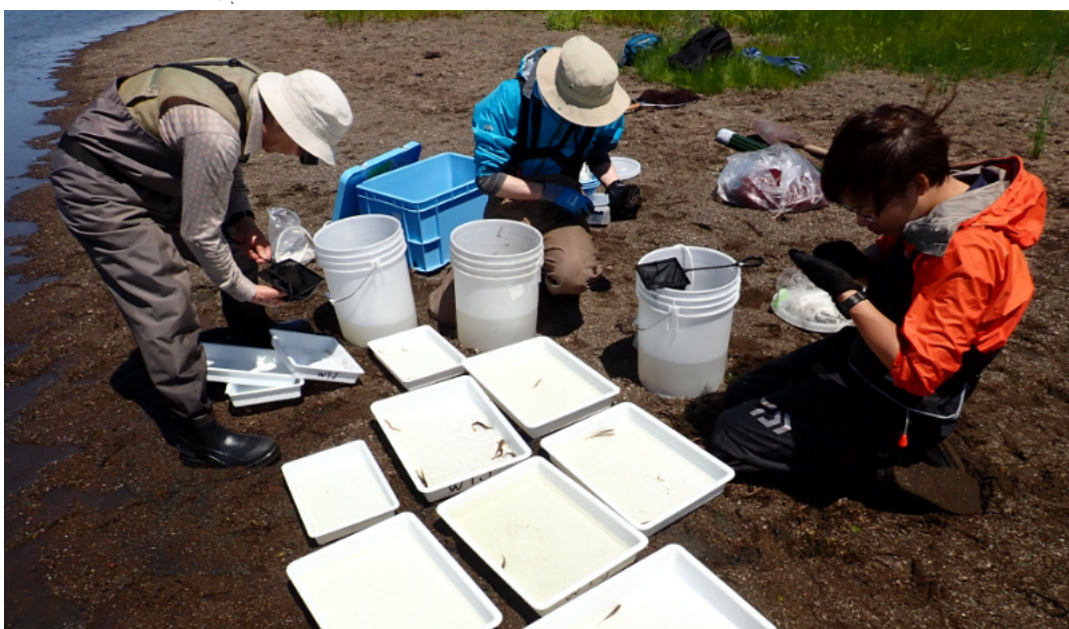
今年度は、定置網を3地点に設置しました。調査の結果、1回目の調査で16種、2回目の調査で12種、合計で18種の魚類が確認されました。1回目の調査ではエゾウグイやニホソイトヨ等が採集されました。また2回目の調査では、1回目には確認されなかったイシカリワカサギやアメマス等が確認されました。環境省レッドリスト掲載種としては、エゾトミヨやスナヤツメ北方種等が確認されました。一方で国内外来種のモツゴやコイ（飼育型）等も確認されました。

【調査者・調査協力者】

針生 勤（釧路自然保護協会）、川西亮太（北海道教育大学）、井藤大樹（徳島県立博物館）、青木美鈴（日本国際湿地保全連合）



イシカリワカサギ（準絶滅危惧種）
(2024年9月撮影)



網に入った魚を種類別に分けている様子
(2024年6月撮影)



エゾウグイ
(2024年6月撮影)



アメマス（エゾイワナ）
(2024年9月撮影)

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 淡水魚類調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeFreshwaterfishes_manual_ver2.pdf

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）淡水魚類調査

ウトナイ湖サイト

－北海道苫小牧市－

ウトナイ湖は、勇払原野の北西部に位置する淡水の海跡湖です。湖には3本の河川が流入し、南端の勇払川から流出した後、太平洋に通じます。ウトナイ湖とその周辺からは、これまで30種ほどの魚類が確認されており、エゾホトケドジョウやニホンウナギ等の絶滅危惧種も見つかっています。一方でコイやモツゴ等の国内外来種が多く侵入しています。ウトナイ湖は、日本野鳥の会により日本初の野鳥のサンクチュアリが設置され、ラムサール条約湿地にも登録されています。また、環境省「生物多様性の観点から重要度の高い湿地」に選定されています。



勇払川流入部よりウトナイ湖を望む
(2024年7月撮影)



モツゴ（国内外来種）
(2024年7月撮影)

2024年度の調査結果概要

ウトナイ湖サイトは、2018年以来、2巡目の調査となります。1回目の調査は7月2日～3日、2回目の調査は9月2日～3日に実施しました。調査マニュアルに従い、定置網に入った魚類を回収し、種ごとに個体数を数え、湿重量を測定しました。また、定置網に入りにくい魚種を採集するため、投網とタモ網を用いた調査も行いました。

今年度は、定置網を5地点に設置しました。調査の結果、1回目の調査で14種、2回目の調査で15種、合計で17種の魚類が確認されました。在来種では、トミヨやウグイ等のほか、ジュズカケハゼやニホンウナギなど環境省レッドリスト掲載種が採集されました。一方で外来種も多く採集され、国外外来種ではタイリクバラタナゴが、国内外来種ではモツゴやミナメダカ、オイカワ等が確認されました。

【調査者・調査協力者】

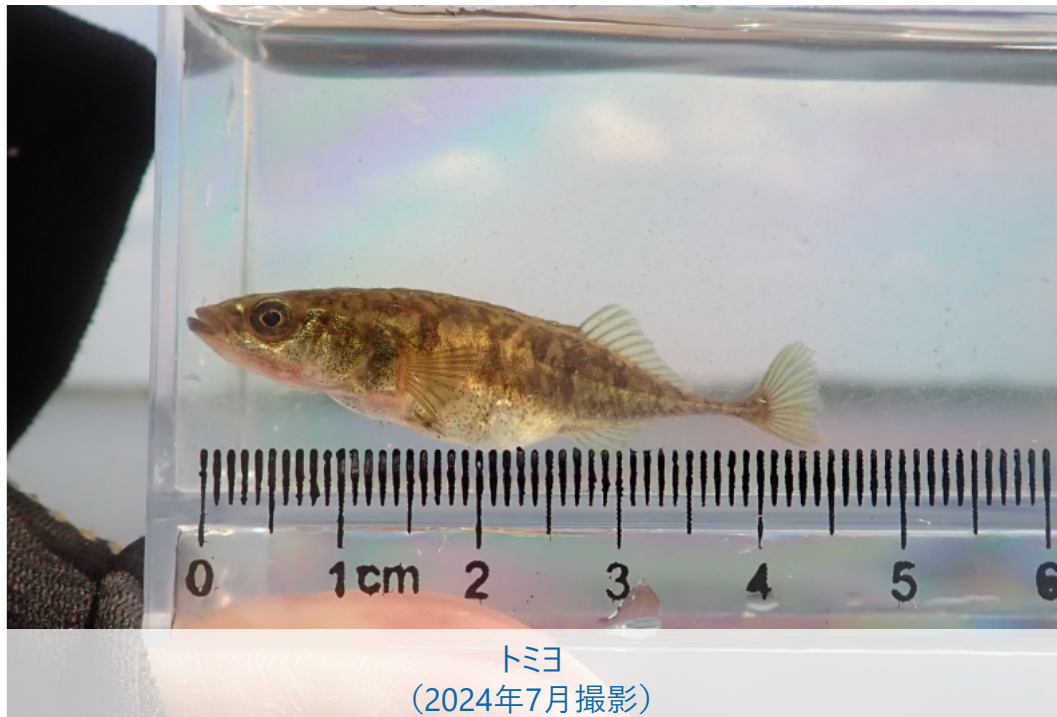
岸田 治・奥田篤志・内田次郎・阿弓将人・松岡雄一・荒木小梅・汲川正次・高橋太郎（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター）、斉藤憲治（水生生物保全協会）、青木美鈴・朴恵真（日本国際湿地保全連合）、ウトナイ湖サンクチュアリ・ネイチャーセンター



ニホンウナギ（絶滅危惧IB）
(2024年9月撮影)



投網の打ち方の指導を受ける調査員
(2024年7月撮影)



トミヨ
(2024年7月撮影)



タイリクバラタナゴ（国外外来種）
(2024年9月撮影)

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）についてもっと知りたい方はこちらにアクセスしてください。

モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼・湿原）の過去の調査報告書
<https://www.biodic.go.jp/moni1000/findings/reports/index.html>

モニタリングサイト1000陸水域調査 淡水魚類調査マニュアル第2版
https://www.biodic.go.jp/moni1000/manual/LakeFreshwaterfishes_manual_ver2.pdf